災害対策していますか？

食料品・飲料水を準備しているのは40.8%

1月1日に石川県能登半島で発生した地震は大きな被害を及ぼしました。日本は言わずと知れた地震大国であり、世界で発生しているマグニチュード5.5以上の地震の発生頻度は1.14回／年と世界第4位となっています。つまり、日本ではマグニチュード5.5以上の地震が年に一回以上発生しているのです。そのような地震大国であるにもかかわらず、地震など、災害への対策は十分に行われているとは言えません。

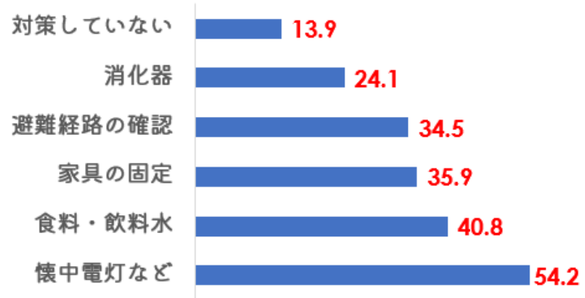
災害への対処法を話し合おう

令和4年に内閣府が行った世論調査によると、【自然災害への対処などを家族や身近な人と話し合ったことがある】と答えた人は61.4%で、36.9%もの人が話し合ったことがありませんでした。その理由としては**話し合うきっかけがなかった**が58.1%と一番多く、地震をはじめ、様々な災害に関するニュースなどを見ていても、他人事として捉えてしまっていることがわかります。

災害が起きる前に対処法を
しっかり話し合っておきましょう

必要な水は一人あたり1日3リットル

災害に備えてどのような対策をとっているかを調査した結果は以下の通りでした。



多くの方が懐中電灯などの照明器具や食料、飲料水などは準備されてることがおわかりいただけますが、実際にどのぐらいの量が必要なのかはわからずに準備されている方も多くいらっしゃいます。
ライフラインが止まってしまったときに、何よりも必要になってくるのは**“水”**です。水は飲料用と調理用で一人当たり1日3リットル、最低3日分として一人当たり9リットルの備蓄が必要となります。

必要な備蓄は
一人当たり
9リットル

地震大国、日本において災害対策はとても重要です。日頃から話し合い、避難経路の確認や非常用バッグを準備しておくなどして、いざというときに備えておきましょう。

日高徳洲会病院　広報誌[インカラ]

Inkar -インカラ- vol.56

- TOPICS -

院長の独り言
医療・介護のお仕事相談会に出展しました
災害対策していますか？

医療法人 徳洲会　日高徳洲会病院
〒056-0005　北海道日高郡新ひだか町静内こうせい町１丁目10番27号
☎ 0146-42-0701

院長の独り言

料理をすることで感じるもの

年配の人ならよくご存知の家庭料理の第一人者であった土井勝さんの息子さんで料理研究家の土井善晴さんは、料理についてのいろいろな名言を述べられており、私も大いに共感するところです。自分は70歳を過ぎてから料理に目覚め、案外才能があると自惚れるに至っております。今は、基本的に私が家では料理を担当しています。私が気に入っている土井善晴さんの名言を紹介します。

『お料理することは自立することです。自立して、自由になって、自分の人生を楽しくやってください。そして、好きな人にお料理を食べてもらってください。あなたは、すでに、その人を幸せにしているのです。それは愛ですね。』

『人間は料理する動物。そして、料理は創造の始まりです。料理が新しい家族をつくる。「料理を作り、食べる」「作ってもらって、食べる」の無限の経験が人間を磨きます。それは、生きる喜びや生きていく力、人を思いやる豊かな情緒、幸せになる力です。』料理を作るようになって、料理をすることがいかに人間にとって大事なことかを実感しますし、作ったものを食べてもらって「美味しい」と言ってもらうことの幸せを感じています。

『一汁一菜とは、ごはんを中心として、汁（みそ汁）と菜（おかず）それぞれ1品を合わせた和食の原点ともいえる食スタイルです。昔の庶民の暮らしではおかずはつかないことも多かったから、実際には「みそ汁、ごはん、漬物」だけで一汁一菜の型を担ってきました。だから、いまだって、おかずをわざわざ考えなくても、ごはんとみそ汁を作り、みそ汁を具だくさんにすれば、それで充分「一汁一菜」なんです。』

みそ汁は確かに食の原点です。私も具だくさんのみそ汁を毎回作るようにしています。みそ汁の具には、これといった決まりはありません。

例えば、ツナ缶でもいいし、ソーセージでもいいし、目玉焼きでもいいのです。思いついたもの、余ったもので十分です。おかずはあればそれに越したことはありませんが、必ずしも用意しなくてもいいと思います。それに加えて、米は白米でも玄米でもない五分付き米を常用していることを付け加えます。高齢の特に男性には厨房に立つことをお勧めします。

介護福祉士さん・看護補助者さん大募集中です!

職場見学も随時受け付けています

TEL:0146-42-0701

医療・介護のお仕事相談会に出展しました

病院=医師・看護師のイメージが強いと実感
医療の現場ではさまざまな職種の方が活躍しています。

多くの高校生が参加

2月28日（水）新ひだか町公民館にて開催された第2回医療と介護のお仕事相談会に、当院ブースを出展いたしました。当日は静内農業高校、静内高校の学生が多く参加され、当院ブースも多くの学生に来場いただきました。

病院=有資格者が働くイメージ

学生の中には、医療の現場で働きたい方はもちろん、まったく別の業界で働きたい方もいましたが共通して感じたことは【病院で働いている人＝医師、看護師など、資格を有する人】というイメージが強いということです。病院には医師、看護師のほかに薬剤師や臨床検査技師など資格が必要な職種が多いことも事実ですが、看護補助者や医療事務など資格がなくても活躍できる仕事はたくさんあります。

看護補助者

患者の世話や看護師のサポートをします。患者さまと接する時間が長く、とても大事な仕事です。

医療事務

患者様の受付や会計、電話応対をするほか、医療費の計算をしたり、保険者に診療報酬を請求したりするお仕事です。

医療従事者として働く

紹介した2つ以外にも、医療に関連、付随した仕事というのはたくさんありますが、医療の現場で働くということをまったく考えていなかった学生にとって病院で働くということはとてもハードルが高いように見受けられました。実際に、病院のイメージを聞くと、「真面目、大変、怖い」などの声が多く聞かれました。病院は病気を抱えた患者さまに対して医療を提供する場所ですので、実際に大変なこともありますが、医療従事者として働くことはとてもやりがいがあります。資格を持っている人、持っていない人、少し興味を持った人など、どんな人でも当院は見学を受け付けていますので、気軽にご連絡ください。